



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と  
男女平等参画社会の形成と促進のために

# WAVE

第 19 号

発行日：平成 30 年 11 月 30 日  
発 行：特定非営利活動法人  
M·I·T·O 21  
〒310-0851 水戸市千波町 508-34  
発行責任者： 黒澤輝子

## ヒューマンライフシンポジウム 2018 を終えて



講師：日本フェンシング協会会長/太田雄貴氏



多くの市民が詰め掛けた会場



お出迎え看板

いきいき茨城ゆめ国体、いきいき茨城ゆめ大会の  
のぼりをたてて、来年 9 月より水戸市で行われる  
競技(バスケットボール、レスリング、軟式野球、  
フェンシング、弓道、ラグビーフットボール)の PR を  
しました。成功させるには市民のボランティア活動  
の協力も大切です。

### = 目 次 =

ヒューマンライフシンポジウム 2018…1 頁  
ヒューマンライフシンポジウムの  
運営に携わって(あしたの学校)…2 頁

名字の謎を解く！夫婦別姓と家父長  
制度や名字の歴史講座…3 頁  
輝く女性活躍社会の施設見学講座  
/編集後記 ……4 頁

# ヒューマンライフシンポジウム

## 2018 の運営に携わってみて

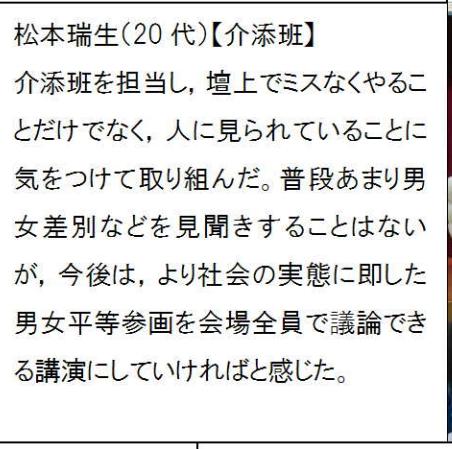
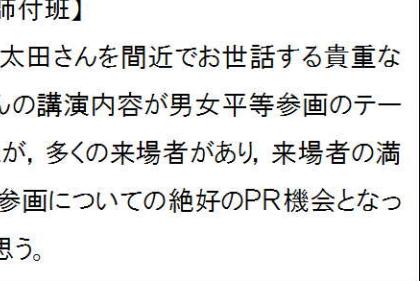
※ あしたの学校 若者と地域をつなぐ市民大学。20代30代の若者で構成。市民大学の運営のほか、課外活動としてイベントの運営などにも取り組む。最近は、「弘道館・偕楽園語り部プロジェクト」を立ち上げ、若者の歴史案内人の育成にも取り組む。

あしたの学校※は、今年度からシンポジウム運営のお手伝いに加わった。主には、準備段階の「①チラシ＆ポスターまちなかローリング作戦」と、シンポジウム当日の「②受付等の運営」を担当した。

「①チラシ＆ポスターまちなかローリング作戦」は、あしたの学校メンバーで、中心市街地を1店舗ずつ、チラシとポスターを置いてもらえるようお願いしてまわった。8月中旬の暑い中であったので、なかなか大変であったが、39店舗にチラシを、また、うち28店舗にポスターを置いてもらえた。今回、申込時に「ポスターを見て参加した」という参加者が多かったことからも、ローリング作戦の成果はあったのではないかと思う。

「②受付等の運営」は、「受付」、「介添」及び「講師付」の三つの班に分かれて、当日の運営をサポートした。「受付」においては、参加者が気持ちよく参加できるように、おもてなしの視点を持って対応に当たった。「介添」においては、あえて男子大学生が担当することで、「介添補助は女性」といったイメージを変えようとした。あしたの学校メンバーは、それぞれの現場で力を発揮し、シンポジウムの成功に寄与することができたと思う。

以下は、運営や講演についてのメンバー6人の感想である。次年度以降は、講師選定の段階から関わり、若者の声をシンポジウムに反映させていきたいと思う。

佐川雄太(30代)【受付班】  若い力をという期待に応え、街中へのチラシ・ポスター設置と、当日の受付を中心に関わらせていただいた。MITO21さんが事前に配布物や名簿等必要なものを整えていたこともあり、円滑な運営ができた。皆さんの熱意を感じる1日で、若者も頑張らねばと奮い立った。  	海野誠(30代)【受付班】  受付は、主催者に変わる「顔」だと思うので、参加者の皆様が気持ちよく参加できるよう「爽やかな気持ち」で挨拶をして資料を手渡した。多数の参加の方方が「ありがとう」と笑顔で受け取ってくださり、男女平等参画や当日の運営に良いイメージを持ってもらえたと思う。  	佐伯望(30代)【受付班】  商店街へのポスター・チラシ設置を依頼したこと、集客はもちろん、まち全体でイベントを盛り上げる雰囲気が作れて良かった。また、当日受付については事前申込者の名簿を事務局の方が丁寧に作成してくださり、スムーズに来場者を案内することができた。  
北井文規(30代)【受付班】  参加者の中にはLGBTの当事者の方もいらっしゃり、LGBTが、自分の思っているよりも身近な存在なのだと驚いた。また、司会者の温かい話し方に引き込まれた。太田さんの講演で、今まで馴染みの薄かったフェンシングへの興味が湧き、茨城国体が楽しみになった。	深谷晃一(30代)【講師付班】  講師付班を担当した。太田さんを間近でお世話する貴重な機会となった。太田さんの講演内容が男女平等参画のテーマと違ったものであったが、多くの来場者があり、来場者の満足度も高く、男女平等参画についての絶好のPR機会となつたことからよかったです。	

## 水戸市男女平等参画月間市民講座

# 名字の謎を解く！

平成 30 年 9 月 22 日(土)

## ～夫婦別姓や家父長制度と 名字の歴史

名字研究家で、テレビなどメディアでも良く登場される講師から、名字の起りや由来などの歴史、家父長制度と夫婦別姓から見える男女の問題など謎を解く話を伺いました。

名字と苗字または氏…自分を示す、あるいは表すもの

戦国時代は苗字を使う、稻苗は分けつと言って生育途上、株分かれし、大きく成長する……縁起のいいものとしてこの字が使われています。

名字の約半数は地名が使われているとのこと、平安時代の頃は自由に名のれた話や東西の争い・関ヶ原の戦いなどで戦に勝った方は変わらず、負けた方はその名を名のれない、そこで読みは同じでも字を変えたり、一字加えたり、読み方を変えたりして増えてきている。

講師がそもそも名字に興味を持ったのは生まれ育った地域・中学校区域で名字が 30 くらいしかないように全国にいくといつあるのだろう。その疑問から今に至っていること。

名字の由来は

・江戸時代が終わり、明治政府になった時、明治 3 年戸籍を作り、国民一人ひとりに名前を与えた。

(先祖の名字の書きつけがあればそれを用いたり、それがなければ、思い思いの名字を作った)

・明治 4 年 戸籍法が出来て、家制度は男子が戸主となり、長男が担うことを法で定めた。

・明治 5 年 1 月 1 日に太政官のお達しにより施行、明治 8 年義務化され、完全な戸籍ができ、住民登録から徴税と徴兵(影にかくして)が可能になった。このあと富国強兵策に利用されたのか…。

・昭和 23 年 1 月民法で夫婦は、どちらの名字にしても良いとなったが、圧倒的に男性の名字であり、元々日本も別姓の時代もあったが、家系図や墓石などを見ると誰それの女や子としての表記である。

しかし夫婦別姓から生まれたと思われる苗字として、互いの名を合わせたもの「加賀美山」や「伊賀井田」など 14 の珍しい名字もあって。名字には日本文化である季節の移り変わりを表す時期を名字にしたもの「四月一日」(わたぬき)や「栗花落」(つゆり)、「小鳥遊」(たかなし)、「毒島」(ぶすじま)は、テレビに登場した珍しい名字です。

今、社会の中では、終身雇用制度がくずれ、男女雇用機会均等法により、男女は平等に職業選択できるが仕事と生活のバランスの取れた暮らしをできる人は多くはなく、少子化は大きな問題で、珍しい名字の中、全国で一軒しかなく、子孫がなく途絶えてしまうものもあり、「勘解由小路」(かでのこうじ)家は最後の一人の戸主が養子縁組をして残る方法をとったとの話をされた。

名字は減ることが懸念されるが、戦前から外国人が永住・帰化し、国籍を変える場合もあり、移民がいる時代であり、新しい名字も生まれている。仕事上で名前の相談を受けたこともあり、名前は一生使うもの、人の忌み嫌う字や言葉は出来るだけ避け、親が一番先につける大切なものの、親の思いがたくさん詰まっており、大切にしてほしいという。現在子どもの名前は、キラキラネームなどフリガナがつかないと読めない名などあるが、人名漢字の幅広い対応は素晴らしい。今年の子どもの名前 1 位男児「翔太」女児「美咲」だと、大きな夢をもって大きく羽ばたいていける社会にしていきたいと願うばかりである。(事務局:記)



講師 名字研究家 高信 幸男氏

## 輝く女性活躍社会の施設見学講座

平成 30 年 11 月 12 日(月)

株式会社株旭物産(水戸市高田町 127)を訪問して



本社玄関前にて社長を囲み  
品質管理室長、工場長、総務部長と一緒に

株旭物産はもやしの生産・野菜加工品の製造を中心とした、近年急激に伸びてきた水戸市内の企業である。

従業員は692名(正社員204名)売上高 15,177 百万円、仕入れ先は国内各産地契約農家、販売先スーパー・コンビニ等の大手量販店を相手に年中無休で供給するシステムを稼働している。門を入ると、白い建物の前で作業服姿の社長さんがお迎えくださり、建物内部も白で統一され、事務所内も社長席も含むワンルーム、事務の方も明るく声掛けして規律が取れている。工場に入るには、何か所も着替えや、エアー消毒してとにかく衛生面には気遣いがあり、自動化されたところと人の手のみで処理されるところがあり、袋詰めにも色合わせにも配慮している。

工場で会う人もやさしくご挨拶の声掛けをいただき、温かいおもてなしの社風を感じました。

社長より会社はお金のためにあるのではなく、そこで働く人の幸せのためにあり、お金は手段であり、人こそ会社の資本であり、目的である。会社にとってそこで働く社員とその家族の幸せ、遊ぶ子どもの笑顔ほど大切なものはない。

社員の幸せは百倍の利益に勝る。よい会社とは人の育つ会社であるとおっしゃる。

福利厚生が充実しており●有給消化率の向上●パート社員定年の廃止、●こども手当月額 2 万円の子育て支援、介護手当と家賃補助、●産休後の復帰も元の部署へ●時短勤務制度の活用●社員への様々なプレゼントとして、目標達成時、年末繁忙時、永年勤続者は社長との旅行等、そして社内環境については男女とも平等な機会のある会社をめざし、待遇・給与などの面で男女差はなく、実力主義の昇給・昇格であり、本人の能力、意欲、希望を考慮した異動・配置を行う。

今後の課題は●女性が管理職になりたいと思える環境つくり、残業時間削減などワークライフバランスの実現●育児期間でも後ろめたさを感じない環境つくり、●母親ならではの視点を生かした職場●男女の区別なく、キャリアを積ませる人事異動とうたわれている。

会社は人があって繁栄する。従業員を大事にしている。あれ以後、スーパーに入るとカット野菜の売り場に足が向く昨今です。(池田寿美子:記)



数々の商品



会議室で社長の講話を聴く

この事業は NPO 法人ひと・まちねっとわーく男女共同参画推進支援事業補助金により実施しました。

**編集後記:**ヒューマンライフシンポジウムが 9 月に入つてすぐの開催で暑い時期に「あしたの学校」の若い仲間がポスター貼りやチラシまきを頑張ってくれました。急ピッチで作業したことを思い出します。いきいき茨城ゆめ国体のリハーサル大会行事も猛暑が続き、長いイベントシーズンは水戸黄門漫遊マラソン、水戸市産業祭と天候に恵まれ開催されました。今年の総仕上げ、この会報発行で平成 30 年もあと数日で終ります。来年も思い出に残る事業をしたいです。事務局